

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）



出願人代理人

森本 義弘

様

あて名

〒 550-0005

大阪府大阪市西区西本町1丁目10番10号
西本町全日空ビル4階

PCT見解書

(法第13条)
[PCT規則66]

発送日

(日.月.年)

27. 4. 2004

出願人又は代理人

の書類記号

PCT3741

応答期間

上記発送日から

2

月

以内

国際出願番号

PCT/JPO3/08060

国際出願日

(日.月.年)

25. 06. 2003

優先日

(日.月.年)

01. 07. 2002

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. H02K 3/50

出願人 (氏名又は名称)

松下電器産業株式会社

1. これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。

2. この見解書は、次の内容を含む。

I ☒ 見解の基礎

II ☐ 優先権

III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

IV ☐ 発明の単一性の欠如

V ☒ 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

VI ☐ ある種の引用文献

VII ☐ 国際出願の不備

VIII ☐ 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。

いつ?

上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように?

法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお

補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.2の規定により 01. 11. 2004 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

下原 浩嗣

3V

9179

電話番号 03-3581-1101 内線 3356

I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

- ☐ 明細書 第 _____ ページ、
 明細書 第 _____ ページ、
 明細書 第 _____ ページ、
 出願時に提出されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、
 出願時に提出されたもの
 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、
 図面 第 _____ ページ/図、
 図面 第 _____ ページ/図、
 出願時に提出されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 出願時に提出されたもの
 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-11	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-11	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-11	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

請求の範囲 1-6, 11

文献1: JP 51-103294 A (アムブ・インコーポレーテッド)

11. 09. 1976, 全文, 全図

文献2: JP 3-203550 A (三洋電機株式会社)

05. 09. 1991, 全文, 全図

請求の範囲1-4に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1および文献2より進歩性を有しない。

上記文献1には、固定子鉄心の端面上に板状の突起部からなる接触器を備えた複数の接触端子を設け、これら接触端子を固定子鉄心の端面から同一高さに配置するとともに、複数の板状突出部の面を互いに同一平面上にないようにずらして配置したものが記載されている。

上記文献2には、モータの端子部の構造として、リード線の旗形端子が互いに干渉しないように複数の旗形端子の面が互いに平行とならないように配置することが記載されている。

文献1と2の発明は、モータの端子の構成という点で同一の技術範囲に含まれる技術事項である。文献1の発明において、その共通する技術課題を解決するために、文献2に記載された、端子を互いに平行とならないように配置するという構成を適用することは当業者にとっては自明のものである。

また、上記文献1には、固定子鉄心の両端面に絶縁板を配置する構成が記載されている。

請求の範囲 9-10

文献3: JP 55-125050 A (株式会社日立製作所)

26. 09. 1980, 全文, 全図

請求の範囲9-10に記載された発明は、上記文献1, 2および、国際調査報告で引用された文献3より進歩性を有しない。

上記文献3には、旗形端子を覆う電源カバーを設けることが記載されている。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 7-8

文献4: JP 8-266000 A (株式会社富士通ゼネラル)

11. 10. 1996, 全文, 全図

文献5: JP 63-121441 A (株式会社東芝)

25. 05. 1988, 全文, 全図

請求の範囲7-8に記載された発明は、上記文献1-3および、国際調査報告で引用された文献4, 5より進歩性を有しない。

上記文献4, 5には、絶縁端板にジグザグ状に配置された複数の壁を設け、該壁の間を通過させてリード線を固定したものが記載されている。